

小池百合子都知事に聞く 石原元都知事の広げた風呂敷の畳み方

実は風呂敷の通だった
小池都知事

今回のインタビューに際して小池百合子都知事にお願したのは、石原慎太郎都知事が広げてしまった大風呂敷をいかに綺麗に畳むおつも

りか、そこをお聞きしたいというテーマであった。

小池知事から冒頭飛び出したのは、知事ご自身が実は「風呂敷」の専門家であるというお話だった。石原氏が広げてしまった風呂敷の畳み役として小池氏ほどの適任

者はいないというわけである。小池知事はまだ自民党の代議士であった2009年に『ふろしきのココロ（英名＝JAPANESE MODERN ECOLOGY STYLE FUROSHIKI）』という単行本を日本語・英語で上梓

しており、そこには、コンパクトに持ち運ぶことができ、柔軟な形状、デザインの自由さといった風呂敷の使い勝手のよさが網羅されており、風呂敷の魅力が紹介されている。なる

ほど、その当時の東京都知事であった石原慎太郎氏は着々と風呂敷を拡げつつあり、一方小池氏は風呂敷の魅力とエコを伝える本を世に送り出していたわけである。環境大臣であった時代には「風呂敷展」を開催し、日本の伝統的小道具である風呂敷のエコと文化の再認識に二役買っていたこともあり、2018年の11月には日仏外交樹立160周年ならび

にパリと東京が姉妹都市であることから、パリ市庁舎前広場等において風呂敷をテーマに江戸・東京の文化や芸術などの魅力を発信するアートイベントが開催されるという。

小池都知事ご自身の主張として、風呂敷を綺麗に畳むことはもちろん、かつて関東大震災の頃に大風呂敷と云われた後藤新平氏に負けないくらいの大風呂敷を広げるのもお得意という訳である。

オリンピックの 風呂敷の畳み方

さて、本題のオリンピックと築地問題であるが、まずはオリンピックについてお聞きした。

誘致の段階ではコンパクトさと低予算が「売り」であったはずの2020東京オリンピック・パリピックであるが、当初謳われたおよ



そ7340億円という総予算は、舛添都知事の時代の調査によれば3兆円を超えるという試算数値が示された。実に当初予算の4倍以上という法外な予算になってしまっていたのである。

しかもオリンピック・パラリンピックの予算というのは、森喜朗氏率いる東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が資金不足に陥ってしまった場合にはその分を東京都が補填し、さらに東京都が補填しきれない場合には、日本政府が最終的に補填するということになっているのだ。つまり、組織委員会自体は予算の歯止めを持つておらず、ある意味でいくらでも予算はつき込める。そしてその負担は最終的に国民の税金によって賄われるという流れが出来上がっているのだ。

小池都知事によれば、オリンピック・パラリンピックの総予算はインタビニュー時点で1兆3000億程度までは絞り込まれているというが、組織委員会の資金で賄われる筈もなく、いったい東京都の負担額がどれほどになるのかは未だ不透明である。もともと、ここに来て東京都の収入

源の一つである消費税の割り当てについては、自民・公明両党の決定した2018年度の税制改正大綱において1000億円以上税収が減る見込みとなった訳で、当然ながら東京都の税収が減ることになれば、オリンピック・パラリンピックの予算における負担額も予算上削らざるを得ない状況となり、翻って国の負担額が増加することになるのはやむを得ないことだろう。

さらに誘致当初から叫ばれてきた「レガシー」作りについても、使い捨てではない、未来に残せる遺産は良いが、それが莫大な維持費を継続的に計上する「負の遺産」となりかねない危惧もあるが、東京都の方針としては、施設自体をできる限り民間へ移管し、都の財政を使うのではなく、継続する費用については民間の知恵で引き継いで経営的手法で運営していくような方法を取っていくという。また、施設自体も設計段階から常時数万人を収容する前提での設備づくりを行うのではなく、例えば冷暖房設備については、常に全体を対象に動かすのではなく、利用状況に応じて効率よく部分的に稼働さ

せるといった方法を取り入れることで、特に光熱水費についてのランニングコストを大幅に低減させることが可能であるという。

現時点でおよそ1兆3000億という2020東京オリンピック・パラリンピックの総予算を有益なものとするか浪費と見るかは、おそらく物理的なものだけではない遺産、つまりレガシーがどのように残されていくかにかかっているといえよう。

かつて大風呂敷と言われた東京都知事、後藤新平氏が関東大震災後に残したレガシーのように、小池百

合子都知事が2020東京オリンピック・パラリンピック後に何を残しているのか。誘致時点から叫ばれてきたサステナブルという謳い文句と並んで語られてきたフレキシブル（柔軟性）というテーマを「フロシキブル」とおっしゃる小池都知事の風呂敷の専門家としてのお手並み拝見というところである。

築地ブランドよ何処へ行く

さて、石原慎太郎氏が際限なく広げた風呂敷が2020東京オリンピック・パラリンピックだとすれば、





銀座、新橋、京橋、日本橋を従える築地市場

築地市場の豊洲への移転問題は、とにかく丸め込んだ風呂敷包みをポイッと放り投げた図である。しかもその風呂敷を開いてみたら、移転先の豊洲における汚染水の存在やら土壌汚染対策工事の不備やら、盛り土が予定されていた部分が空洞になっているやら、パンドラの箱よろしく次々と問題が噴出してきてしまったのである。

とりあえずいったん移転を凍結した小池都知事であったが、そこで再検証する間にも更なる問題が露見し、徒に時間ばかりが経過しているように見える事態になってしまった。



築地市場のマグロの競り（東京都 生活文化局）

結果的には元に戻って豊洲への移転と相成ったわけであるが、築地の再整備という副題が加えられ、玉虫色のな帰結をしているようにも見え、釈然としないという関係者の声も聞こえてくる。そこで、世界的にも名の売れた「築地」TSUKIJIブランドを今後どのようにしていくつもりなのか、そのアングルから小池都知事にお話を伺ってみた。

都知事のご意見では、築地は食の基地であり拠点であり、地域との関連の中で愛されてきた場所である。その築地の市場としての中核的な機能は豊洲に移るが、銀座、新橋、京橋、日本橋などの地域から愛されてきたそのロケーションとしてのブラン

ドの価値は残していくということになるのだという。

東京の二等地にいきなり出現する「築地」というスペースをいかに活用していくか。そのために有識者を集めたて様々な意見を集めているのだ。現在の築地市場に隣接する本願寺や浜離宮の関係者も含め意見を集めながら、これまで培ってきた「食」という要素に加えて、さらに観光的な観点からの捉え方も可能であるし、近くには大きな医療施設も多くあり、新たな東京の拠点としての「築地」ブランドを構築していくというお考えのようである。

願うことならば、これまでとくなくないがしろにされてきた傾向の強い「築地」の河岸で働く人たちの「いき」で鯔背な心意気をきちんと受け止め、これまで培ってきた「築地」のスピリッツやソウルを受け継いで欲しいと思う。築地に限った事ではないが、東京の下町に昔から暮らす人たちは「江戸ことば」を話す。「ひ」が「し」になることから渋谷（しぶや）と日比谷（しびや）が混乱したりする。その「江戸ことば」では、風呂敷は「フルシキ」となる。この「江戸こ



築地本願寺



近隣の浜離宮（東京都 生活文化局）

とば」を話す人たちが大切にしてきたのは数値や金額に換算することのできない「こころ」である。

風呂敷（フルシキ）の専門家を自負する小池百合子東京都知事には、是非ともこの「いき」で鯔背な江戸っ子の精神にも目を向けていただき、その「江戸ことば」に耳を傾けていただけたらと願う。

都民の生活がいちばん

間近に迫った2020東京オリンピック・パラリンピックも、築地市場の豊洲移転問題も大きなテーマであることは間違いないが、小池都知事にとって大切なのは都民の日常生活であるという。子供を安心して預けることのできる社会、田舎のお

墓の世話をどうしていくのか、100歳以上の人口が10年後には20万人を超えという高齢化社会の問題などなど、都民のひとりひとりにより身近なテーマを見据え、地道な都政運営をしていくことも大切であるとおっしゃる。都民生活にとつてより身近なテーマをひとつひとつ着実に解決し、楽しい東京という街づくりを実現していく。

それが小池知事に託された大切な責務であるとお考えである。なるほど、都政にかかわる時の小池都知事の本陣は「都民ファーストの会」であり、今回のイン

タビューも都庁の知事室ではなく、より身近に小池都知事に接することのできる「都民ファーストの会」の事務所であった。

最後に元石原慎太郎都知事について伺ったのだが、2020東京オリンピック・パラリンピック誘致も、築地市場の豊洲移転問題も、石原氏がそれこそ築地の魚のように俎上に乗せることがなければ現状の議論は無いわけで、東京マラソンを始められたのと同じように、その功績は高く評価したいとお考えだという。

もちろん、その風呂敷

のツケ払いの小池都知事が責任を持つて行く覚悟だという。ただひとつ、石原氏が尖閣諸島の問題に火を点けてしまったことはとても大きな失敗であるという。触らなければ領土問題でもなんでもなかったものを、わざわざ絶好のチャンスを与えてしまったという点では未来に対してとても大きな禍根を残すことになった



という。

様々な形状で小池知事のもとに残された風呂敷の数々、そのひとつひとつをいかに美しく華麗に畳んで見せるか。ここからが風呂敷の専門家を目指す小池都知事の見せ場である。願うことならば「ふろしき」だけでなく「フルシキ」の方もきちんと畳んでいただけたらと思う。



移転に向けて工事の進む豊洲新市場（東京都 生活文化局）